

くらふと

県育協だより

発行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第36号



賀露みどり保育園
園長 和田 尚子
(わだ なおこ)氏
ふたご座

所在地：鳥取市賀露町南4丁目10番3号
定員：120名 利用定員(110名) 0歳児～5歳児

— 第12回 くらふと広報誌からの保育園紹介 —

社会福祉法人 にじ色会 賀露みどり保育園

昭和31年に「みどり幼稚園」として発足し、昭和45年に社会福祉法人「賀露みどり保育園」と称し、認可保育園の事業を開始しました。平成25年には園舎の全面改築工事を行い、法人名を「にじ色会」に変更し、令和元年には50th Anniversaryを迎え、現在に至っています。



〈保育理念〉

あたたかな陽だまりのように—

人と人の出会いを大切に、想いと想いに寄りそってあたたかな心の絆を築いていきます。

そして、私たちは、輝く“今”と“未来”をみつめ、大きな愛でやさしくつつみます。

子どもたちと、子どもたちにかかわるすべての人の笑顔と幸せのために。

〈保育方針〉

- 明るく親切で素直な子どもに育てる
- 自然環境に親しみ、健康で活気のある子どもに育てる
- 自主自律の精神を養う
- 事物を大切にし、感謝の気持ちを養う
- のびのびと豊かな想像力を育てる



〈保育目標〉

よりよい環境と家庭的な安定した雰囲気の中で、幼児の健康と安全を保ち、基本的な習慣を身につけ、心身の調和的発達を図り、円満な人間形成の基礎を養う。

長引くコロナ生活の中で、マスクの着用、パーテーション設置、手指消毒…etc. 保育園ではすっかり聞き慣れた言葉になりました。園児の受け入れもなるべく短時間での玄関対応で行っている為、保護者の方との連携は連絡帳でのやり取りが主流となり、例年行っていた行事も中止したり、内容の変更を余儀なくされてきました。

しかしながらコロナ禍といえども、「子どもたちがその時、その年齢でしか体験できないことを体験させたい」という職員の思いや、「行事を通して子どもの成長が見たい」という保護者の思い

をくみ取りながら、コロナ禍での配慮すべき点、行事を実施する意味を再確認し、今年度は取り組んでいます。

コロナ禍以前は夏ならではの行事として、全園児と保護者が「夕すずみ会」に参加していましたが、感染拡大以降はクラス内でも少人数グループで参加する、使用したものはその都度消毒をする等の感染対策を行いながら園児と保育士のみで「みどりっこまつり」に変更し、実施してきました。



令和4年度の「みどりっこまつり」は3年ぶりに保護者参加での計画をしていましたが、コロナ感染拡大により残念ながら子どもたちと保育士のみでの行事となってしまいました。「みどりっこまつり」の様子を動画で配信し、それをご覧いただいた保護者の方からは「一緒に参加することはできなかったが、

友だちや先生と一緒に楽しんでいる我が子の成長している姿が見られてうれしい」との感想をいただき、保護者の方と子どもたちの育ちを共有し、成長を共によろこび合うことができました。保育園では「ソーシャルディスタンス」として、「人と人との距離」を保って感染症対策を行う日々ではありますが、子どもたちの不安な気持ちを当たり前として受け止め、更に不安を安心に変えてあげられるような愛着関係を構築していくよう、「心と心の距離」を近づけ、子どもたちと向き合っていきたいと思えます。

園を知る3つのポイント

ポイント① 音楽って楽しいな

音楽を通して豊かな感性と想像力を育み、他人に対する思いやりの心を培うことを目的に昭和55年より専門の音楽講師を招へいし、マーチング・器楽合奏に取り組んでいます。

全園児が年齢にあわせたわらべ歌やリズムあそびなどを通してあそびの中で「音楽」に親しみ、年度末には音楽発表会で一年の成果を発表しています。



ポイント② おじいちゃん・おばあちゃん大好き

核家族化が進む中、祖父母との交流を持つ機会が少なくなっています。

普段一緒に過ごすことが少なくなったおじいちゃん・おばあちゃんとのふれ合いを持つ行事（さつまいも苗植え・祖父母参観日等）を計画し、楽しい時間を一緒に過ごしています。

ポイント③ 地域と共に

「生き生きとした賀露の子ども—自分大好き・友だち大好き・賀露大好き」をテーマに地域の小学校、公民館、保育園が合同で連携事業（公民館ボランティアさんによる絵本の読み聞かせ・花の苗植え等）を行い、地域の子どもの健やかな成長を見守っています。



各研修会報告

第1回食育研修会

向山保育園 林 美樹

第1回食育研修会が6月24日(金)から28日(火)を配信期間として、鳥取短期大学助教 石賀安枝先生の「幼児期に最も必要な食育は何か」子どもたちに効果的な食育媒体のテーマでオンライン研修が開催されました。

「園における食育リーダーは誰が最も適任か。」というテーマでは食育は保育の一部であり、リーダーは保育士がなるのがふさわしいと話されました。日頃から保育士と連携を取りながら、子どもの育ちや発達に応じ、食育を進めてきました。が今後はさらに食育目標も理解し、そのねらいが達成できるように活動に取り組んでいきたいと思いました。

そして、クッキング活動では目的意識を持ち、何のためにその活動をし、どんな気付きを期待して

いるのかを考えながら計画するとマンネリ化することはないと話され、これまでの活動が経験のみを重視するような取り組みになっていかなかったかな、保育する私たちの主導になっていなかったかな、と振り返り、今後の取り組みの見直しをしようと思いました。

また、栄養教育の話では、長年「栄養素」「栄養バランス」の話はどう伝えれば子どもたちは理解してくれるのかが課題で苦労していましたが、一番大事なのは栄養バランスを考えておいしく作られた食事を、子どもたちが好き嫌いなく残さず食べられるように助けてあげることが栄養教育だと学び、給食の大切さを再確認しました。今回の研修を受け、これからも子どもたちのために調理すること



石賀先生

だけでなく、積極的に関わり、心も身体も成長を促していけるような調理員としての「食育」の役割を果たしていこうと思いました。

第1回施設長研修会

安全管理研修「保育・教育の価値とリスク」について

日吉津保育所 山路 由紀子

保育の安全研究・教育センターの掛札逸美先生を講師にお迎えして、第1回施設長研修会を7月6日(水)に開催いたしました。

「保育士の価値ある仕事」を皮切りに日々のコロナ感染対策、様々な感染症対策で消毒業務や保護者対応で疲弊している現場職員にとって肯定的な話しかけは元氣と活力をいただきました。20年後の鳥取を担う人材を育成している私たちの仕事の価値づけから、子どもが育つ以上リスクをゼロにすることはできない、ならばどのような対応力が必要なのか、現場ならではの事例を挙げて事故に対してのヒヤリハットについて学びました。

チーズの穴に例えられた話から「○○があったはず、○○をしたはず」と今日に限って発生した事故について、たいていの事故は途中で止まってしまわずなのに、チーズの穴を通り抜けて事故が最後まで起こってしまい、最悪の事態となり深刻事故となる。「野良水、野良紐、野良隙間」を放っておいたことで深刻な出来事となり、10分息が出来なければ死ぬ事例は、常に潜んでいる事故である。大人(保育士)が気にしていない、管理していかない物が危ないと講演頂く中で「命を預かる側(保育所)」という概念から逆に「命を預けている側(保護者)」の責任についても納得でき、私たちも主張するべきポイントもいただきました。保育士の配置基準は「保育に携わる人員配置」であり「子どもを監視する業務は別物」、ハザードと無関係であるという言葉に救われた気持ち半分、されど課された仕事だけに人員体制の要求を明確にしていく勇氣になりました。

また、保育中に「大丈夫」とついつい言ってしまうがちな感情のリセットとして、安全や健康につ



掛札先生

いて「根拠のない大丈夫」は言わないという先生の言葉は、「その通り。」と保育士の変なプライドに突き刺さりました。何も知らない子どもを「大人基準で」危険にさらす行為もいま一度職員に向けてアウトプットを行い、今後の保育に活かしていきます。

保護者に伝える文面の活用も参

考に、リスクを抱えるだけでなく

保護者に納得して預けていただく

技もこの講演で参考になりました

た。引き続き冬にも研修会が予定

されており研修を楽しみに日々の

安全管理に精進し、子どもを守

り、職員を守っていききたいと思

います。

保育士研修会

城北保育園 福井 美樹子

保育士研修会が、7月8日から

12日までオンラインで開催され

ました。講師を鳥取大学地域学部地

域学科人間形成コース教授 寺川

志奈子氏に「乳幼児期の心の発達

―かかわりで大切にしたいこと

―」と題してご講演いただきました

た。

乳児の運動面での発達は、最初、

左右非対称の動きをしています。

外の世界が魅力的で、見たい、触

りたい、掴みたいと思うことで、

左右対称の動きをするようになり

運動面での発達が見られるよう

になってきます。

日々の保育を振り返り子どもた

ちの成長に寄り添っていけるよう

心がけていきたいと思いました。

次に心の発達では、1歳半頃にな

だこねの時期が見られるように

なってきます。この時期は、子ど

もの「〜したい。」という気持ち

を大切にしながら全面的に否定せ

ず、自分で選択できる間を大切に

関わっていくことが必要だと思



寺川先生

心の発達には、安心できる人や居場所作りが大切だと分かりました。保育士は子どもたちが安心して登園できる存在や居場所になり、子どもたちの年齢や発達の時期をしっかりと捉えその時々に必要な関りや経験を大切にしながら日々の保育を積み重ねていききたいと思われました。

初任・初級保育士研修会①

子どもの育ちや学びを語り合ひ、保育を可視化しながらより豊かな保育を実践する

美保保育園 山本 和宏

初任・初級保育士研修会 第1

回目が7月21日(木)にオンライン開

催で行われました。

今回は昨年度に引き続き「保育

のデザイン研究所」川辺尚子氏を

講師に迎え、「保育の中で大切に

したいこと」の講演をしていただ

きました。講演では、子どもたち

の未来に繋がる「幼児教育・保

育」の中で、一つの問題に様々な

視点から考え話し合える力を育む

ことが大切だと言われ、「知識及

ます。2・3歳の頃には感受性が高まり、経験したことと言葉がぴったりと合ってくる時期になります。生活の中での発見を大切にしながら心が動く豊かな経験を積み重ねていけるように関わっていききたいと思えます。それから4歳半頃になると自制心が形成され、自分を励まし気持ちや行動をコントロールしながら世界を広げていくようになります。保育士の関わりとして、子どもたちの話を聞きながらどうすればよいのか一緒に考え友だち同士の関わりを仲立ちしていききたいです。5・6歳頃には時間軸での人との関わりを大切にしながら違うけど一緒に嬉しい仲間作りを考えながら育てていきたいと思えます。

今回の研修を通して乳幼児期の

び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性」の3つの柱を元に自分が大切にしたいことを小グループに分かれて話し合いました。参加者自らが進行していただくことで表情も和らぎ、各グループが活発な意見交換をすることができました。

その後、「子どもの今」を捉えるために写真の活用について話され、日々変化していく子どもの活動を具体的に記録として残すことができ、同じ場面を見ていない人と共有することで、それぞれの視点から考えを出し合うきっかけをつくることができました。チャレンジする姿、他児を気遣う姿など、実際の写真を見ながら話し合う中で自園の子どもたちに重ね合わせる参加者の姿がありました。第2回目は実際に撮った写真を準備いただき、グループ討議を行います。

オンライン開催が3年度目となり、青年部員や各園の先生方も少しずつ慣れてきたように思いますが、しかし、実際に顔を見合わせと一緒に考え、保育への思いを共

有する研修会が一日でも早く開催できるように願っています。



川辺先生

第1回障がい児保育研修会

みのり保育園 金本 伸子

8月19日から5日間、第1回障がい児保育研修会がオンラインで開催され「園における特別な配慮を要する子どもと保護者への支援」について、鳥取大学学生支援センター准教授 井上菜穂先生にご講演いただきました。

井上先生は、鳥取大学に通う発達障がいのある学生との関わりの中で感じておられることを、お話しくださり、その中で「気になる子どもたちが大人になった時の姿が想

像できますか？今起こっている問題行動は、大人になった時に一体どうなっているんだろう？と考えることがありますか？」との問いかけがありました。

小さい時に悩んだことは、大きくなって、同じことで悩むことになる。つまり、大学生の悩みや困り感は、幼児期の困り感と共通している。

例えば、友だちが出来ない学生は、どうしたら友だちが出来るのかその方法がわからず、それがきっかけで学校に行けなくなってしまう生徒がいるとのこと。

保育園においても、友だちと関わりたくても上手く関われないといった姿があると思います。それに対する手立てが出来ていないこととで、その時期に合った発達の機会を逃がしてしまうこと、又その後の発達を促すことが難しくなってしまうとお聞きしました。小学校・中学校・高校・大学そして就職してから、環境が変わる度に同じことで悩んでしまうという現実。それを回避するためには、子どもの困り感に気付いたら、将来を見据えたサポートを、“即”行う

こと。幼児期から、困ったことがあったら、“先生に相談する力”、“先生の所に相談に行く力”を身につけることが大切であると話してくださいました。

このお話を通し、私たち保育者ができることは、子どもの発達をよく知り、保護者に寄り添いながら、一人ひとりの発達に合った支援を共有していくことが最も大切であると感じ、我が園でも、早急に実践していこうと思えました。



井上先生

第1回乳児保育研修会

こたか保育園 番原 徹

第1回乳児保育研修会が8月26日から5日間、オンラインで開催されました。「ヒトの育ちを科学

の視点で理解する「ポストコロナ社会に生きる次世代に向けて」と題して、「比較認知発達科学」という新しい分野を開拓、研究されている京都大学大学院教育学研究科教授 明和政子先生に講義をいただきました。

ヒトは他者との身体接触なしでは生存できない生物であり、乳幼児期の身体接触は脳と心の発達に直接影響すると言われました。触れられながら聞いた言葉の方が左半球の側頭領域(言語処理の場所)が強く活動すると実験の結果で証明されているそうです。例えば園や家庭で食事をするときは笑顔で「おいしいね」と声をかけ、背中をさするなどのふれあいが重要であるとされました。

また、マスクをした他者との日常生活がもたらすリスクについても話されました。脳発達において、視覚野や聴覚野の部分が生後3か月から就学前までは環境によって大きく変化するそうです。乳幼児期の子どもは大人の表情を見て、相手の感情を理解し、共感する心が発達したり言葉を獲得したりしていきます。しかし、コロナ禍のマ

スク生活で相手の口元を見ることができないので、言葉の獲得は難しいと言われました。そのためには保育園での透明マスクの使用や、感染状況を見て乳児だけでもマスクを外し、互いの顔を見合いながらのコミュニケーションを取っていくことが大切だと話されました。

コロナ禍の今、様々な制限がある中で我々保育士は保育をしていかなければならない状況にあります。正直、どうやって子どもたちの発達を保障してよいか戸惑い、悩むところがあります。今回の講義を参考に、子どもたちのためにできることを職員で話し合ってきたと思います。また保護者の皆さんにご協力を仰ぎながら、子どもたちが健やかに育つ保育に取り組んでいきたいと思っています。



明和先生



日暮れが早くなり、虫の鳴き声が響くようになりました。スーパーには秋刀魚や梨が並び、「秋が来たな」と感じます。コロナ禍の中、食材を買って料理したりテイクアウトして食べたりすることは楽しみのひとつです。これから「食欲の秋」到来で少し怖いですが…。また店頭には一足早くハロウィングッズが並び、見ているだけでウキウキしてきます。自然の変化と合わせて日常生活の中で季節の移り変わりを感ずる今日この頃です。(M・K)

日々。保育現場は気が休まらず疲れもピーク。そんな時に届いた言葉に癒やされた。「立秋。どなた様も、どうぞお身体おだいじに」としても大切に思われている気がした。そして元気が出た。皆様にもお裾分けを…。(K・I)



毎年24時間テレビを見ると、今年の夏も終わりだなあと感じます。今年のテーマは『会いたい』でした。今会いたい人は誰だろうと考えた時、沢山の人の顔が浮かびました。まだ出会えていない人たちにも出会いたいです。誰とでも笑って過ごせる日々が少しずつ戻ってきてほしいと思いました。(N・F)

ZOOMによるオンライン講演を録画し、後日配信するという初の試みだった研修会も無事終わり、少しホッとできた前期でした。いろいろな考えさせられることもありましたが、良い経験と捉えたいと思います。R5年度の研修会など早くも次年度に向けての活動も…。もうひと頑張りです。(K・K)

園ではベビラッシュ。可愛い、男の子、女の子、メダカの子?! みんな子育てに奮闘中!!私もそれぞれ、何育てしようかなあ…。(N・K)

エンゼルス・大谷翔平投手が10勝目を挙げ、1918年のペーブ・ルース以来104年ぶりとなる「2ケタ勝利&2ケタ本塁打」の大記録を達成した。ダイエツト中だったが、ファンタグレイプで乾杯した。(T)

わが園の食育活動

楽しく食べることを通して

浜坂保育園

今年は、新型コロナウイルスオミクロン株B A. 5が感染拡大し、暑さ対策と合わせて大変な夏となりました。活動や行事に制限がかかる中、子どもたちの元気な姿や「おいしかった。」の声にパワーをもらいました。感染対策をとりながら実践できた食育活動をご紹介します。

わくわく菜園活動 ～夏野菜(トマト・ピーマン・ナス・きゅうり・スイカ)の収穫～



花が咲く、実がつく等生長の様子を観察することは発見と驚きの連続です。また、水やりなどのお世話を通して“自分たちで育てた”という意識も芽生え、メニューの中に収穫した野菜を見つけると「あったー。」と大喜びの子どもたちでした。季節を感じ、食べることの喜びを味わっています。

らっきょう漬け

5月末、福部でらっきょう栽培をしておられる保護者の方よりらっきょうをいただき、5歳児が根切りにチャレンジしました。根を切り、皮をむくとピカピカのらっきょうが出てきました。その日は園内が、らっきょうのにおいでいっぱいでした。

らっきょう酢につけて1ヶ月位で完成！らっきょうサラダやカレーに付けて食べています。

苦手な子どもも少しずつ食べられるようになり地元の味を味わっています。



～らっきょうの皮むき～



食育指導：3色の栄養素分けボード

メニューに入っている食材を赤・黄・緑の中間に分け、体とのつながりを考える機会にしています。はじめは職員と一緒にしていますが、回数を重ねると自分たちで分けられるようになってきました。後期には、この活動を5歳児から4歳児に引き継いでいきます。



「9月12日は鳥取県民の日」～鳥取県が生まれた明治14年9月12日にちなんで、平成10年に定められました。～

鳥取県の知っていること探し（観光地や食べ物）をしたり食育ポスターを玄関掲示したりして関心が持てるようにしています。この日の給食は、豆腐竹輪のゆかり揚げ、らっきょう漬け、イカの入った酢の物、あご団子汁、二十世紀梨と鳥取の名産づくしです。



普段のメニューや家庭でも味わっていますが、あらためて並ぶと郷土の食であることを実感しました。自然の恵みに感謝し、鳥取を好きな子どもに育てて欲しいと願っています。



鳥取県保育士・保育所支援センターからのお知らせ



保育現場の皆様には日頃より本センター事業についてご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。本センターの実施事業(鳥取県委託事業)の一部を掲載しています。その他の事業についてはホームページ、Facebookにも掲載しています。ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

保育士を目指す学生を応援します!

保育の出前講座

この講座は、県内の高等学校等からの依頼を受け、保育現場で働く保育士の先生とセンター職員が高等学校等へ訪問し、保育の仕事のやりがいや魅力をお伝えするものです。県子ども家庭育み協会の皆様にご協力としてご協力をいただき実施しています。引き続きよろしくお祈いします。

6月12日 倉吉ボランティアフェスティバル(主催:倉吉市社会福祉協議会)

イベント内の医療・福祉のお仕事紹介コーナーで講師として倉吉市 北谷保育園の伊藤捺美保育士、灘手保育園の河西智美保育士にご協力いただきました。日々の保育で使っているパペットやおもちゃを用いながら、保育の仕事のやりがいや葛藤、魅力などをお話いただきました。

【参加者(高校生)の声】

- ・子どもの成長過程に携わることができるのは、本当にやりがいのある仕事だと思った。
- ・保育の仕事は想像していたよりも楽しい職業だとわかった。
- ・保育の仕事に少し興味があったので、詳しく聞いて勉強になった。



現場で働く保育士をサポート!

保育のお悩み相談・メンタルヘルス専門相談 対象>>従事者、事業主

仕事や家庭の悩み・困りごとなど…誰かに聞いてもらうことで気持ちが楽になり、悩み解決のきっかけになることがあります。まずは話してみませんか(来所は要予約)。

保健師にお繋ぎし、専門的なアドバイスが受けられる「メンタルヘルス専門相談窓口」も開設しています。事業主の相談もお受けしています。

新人・若手保育者の育成・定着に向けた エルダー・メンター制度導入助成金 対象>>事業主(公立は除く)

エルダー・メンター制度の導入により保育従事者の職場環境の改善に取り組む事業所または法人に対し、導入またはフォローアップに際して必要となる経費を助成します。

例えば) エルダー・メンター制度に関する職場内研修の実施に要した経費、専門家による助言支援の受け入れ経費、関連書籍・テキストの購入 経費など

【助成額】 1カ所あたり上限 50,000円

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会

鳥取県保育士・保育所支援センター

〒689-0201 鳥取市伏野 1729-5 県立福祉人材研修センター内

TEL 0857-59-6342 FAX 0857-59-6341

Eメール hoikucenter@tottori-wel.or.jp

ホームページ <https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/3/>

フェイスブック <https://m.facebook.com/tottorihoiku/>

利用時間/月曜日～金曜日 8:30～17:00 (祝日・年末年始は除く)

担当者が不在の場合もありますので、来所の際は事前にご連絡ください。



こちらでも
情報発信中!



ホームページ



facebook

うっちー先生のえほんばなし⑧

今回は絵本作家さんについてのえほんばなしではなく、1冊のムック本を取り上げます。大好きなムック本である別冊太陽に私の文章が乗りました♪『別冊太陽 絵本で学ぶSDGs』についての紹介です。

※ムック本…雑誌の形をした書籍。magazineとbookを混ぜた造語

SDGsについての取り組みをしておられる保育園はあると思います。昨年度のリーダー研修では、鳥取市立賀露保育園がSDGsに取り組んでいる内容をまとめておられました。まずはSDGsについておさらい。

Sustainable(サステナブル=持続可能な)
Development(ディベロップメント=成長・開発)
Goals(ゴールズ=目標)

頭文字を取って『SDGs』(持続可能な成長の目標)



2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール、169のターゲットから構成されています。

17のゴールを全てわかっていますか?169のターゲットを具体的に知っていますか?企業は専門分野の人であれば、自分に関わる部分に関しては詳しく語ることが出来ると思います。私はわかりません。しかし、保育はある意味オールマイティを求められる現場。絵本を入口として子どもたちと一緒にSDGsを学んでみるのもいいですね。

- 子どもたちの生活の中、興味関心の中に存在するSDGsをわかりやすく。
- 身近なことからだけでは気付くことの出来ないSDGsをわかりやすく。

本書では91冊の選ばれた絵本が、SDGsの扉を開いてくれます。正直な所、私自身、知らない絵本がたくさんあり、絵本の世界が広がりました!! その中から紹介文を書かせて頂いた2冊について…紹介しようかい。

絵本紹介①

『人体ジェットコースター』 中垣ゆたか=作 奈良信雄=監修 (2021年/ポプラ社)



3 すべての人に健康と福祉を 最速でからだの中を駆けめぐる

子どもの発達を知る指標のひとつに、「体の部位を指示することができる」というものがある。なぜそれが必要なのか、何に役立つのか。それは、体調の良くないときに自分の体のどこなのか説明できるようになるためである。【自分の体を知る】ことが健康への第一歩となる。

本書はいわゆる「食べ物の旅」の様なものではなく、消化器から血管、目、耳、鼻など身体全ての器官を世界最速のスピードで駆けめぐる。描き込みの多い中垣ゆたか氏ならではの愉快的情報の多さは、この絵本でも健在。学びを得ながら、随所で「へえ」といついっしょに声が漏れてしまう。もちろん、ジェットコースターのごとく一気に読み切る楽しみ方もある。口から入ったジェットコースターはどうなるか?それは、予想を外さないゴールを迎えることとなるのはお約束。

『せんろはつづく にほんいっしゅう』 鈴木まもる=文・絵 (2021年/金の星社)

絵本紹介②

9 産業と技術革新の基盤をつくろう 進化を続ける日本の列車

日本をぐるりと一周。東京を出発→東北→北海道→北陸→中国→九州→四国→関西→中部と周る。自分に所縁のあるエリアは愛着があり、純粋にうれしい気持ちになる。子どもと読むと、必ず知っている車両の名前を言う。他エリアも初めて知る路線、車両があり知的好奇心を刺激する。そして、日本を回り終わった後に気付く。「日本を走る鉄道網はすばらしい」と。

『せんろはつづく』は、シリーズ全4冊を通して、山にトンネルを掘り、鉄橋を架け、線路を伸ばし列車を走らせてきた様子を描いている。この鉄道網を大切にすることが、〈鉄道で物流・人流を担う〉という持続可能な強いインフラとして日本を支えることに繋がっていく。もちろん開発と進化は同じではない。

「陸の豊かさを守る」ことも考える。日本の鉄道、これからの進化が楽しみである。



読み応えのある絵本紹介を読む書物としての楽しみはもちろんのこと、タイトル通り〈絵本でSDGs〉を学ぶことの出来る『別冊太陽 絵本で学ぶSDGs』をぜひ手に取っていただきたい!

『人体ジェットコースター』『せんろはつづく にほんいっしゅう』紹介文出展『別冊太陽 絵本で学ぶSDGs』2022年/平凡社

園と園児のリスクに漏れなく備えていますか？

園経営には、さまざまなリスクが伴います。公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・ こどもえんのほけん 4月1日～1年間 (中途加入可能)	「園賠償責任保険(新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯)」「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。
---	--

やくいんのほけん 8月1日～1年間 (中途加入可能)	社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレピュテーション(風評被害)リスクに加えて雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプションで対応する保険となります。
---	--

上記以外にも、「学童保育」などの保険も取り扱っております。

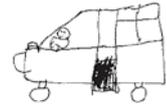
まずは**有限会社ゼンポ**まで
お気軽にご相談ください！

TEL **03-3865-3881**
FAX **03-3865-2806**

〈連絡先〉
 公益社団法人全国私立保育連盟指定
 東京海上日動火災保険株式会社代理店
有限会社ゼンポ
 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
 担当課：公務第二部 文教公務室
 TEL 03-3515-4134

この案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険(レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



公益社団法人全国私立保育連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

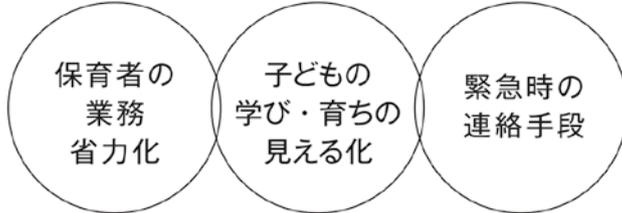
子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨(総代理店)

導入費用
無料

きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。



正式利用お申込みの全施設
 最大9ヵ月
利用料無料!

契約更新後も料金そのまま!
 年間一括利用料6万円
 利用しやすい価格になりました!
 ひと月あたり **5,000円** (税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金が変更になる可能性があります。

詳しくはお問い合わせください。
 <担当者:菅沼、佐藤>